



# Economic Monitor

## 4月の貿易収支赤字転落と中台の統計に見る大震災の影響

上中旬の貿易動向を踏まえると、4月に輸出は急減、輸入は急増し、貿易収支は赤字に転落した可能性が高い。中国や台湾の貿易統計でも、日本からの輸入が落ち込んでいる。自動車関連輸出のウェイトを踏まえると、アジア向けよりも米欧向け輸出が大きく落ち込むと見込まれる。

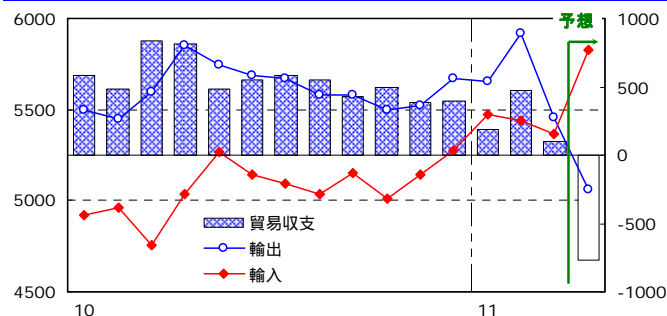
財務省が公表した4月上中旬の貿易動向は輸出 12.7%、輸入 14.2%、中旬のみだと輸出 5.4%（上旬 19.4%）、輸入 27.5%（上旬 0.2%）である。輸出は減少幅が鈍化、輸入は伸びが加速している。但し、前年対比で見ると、上旬は日数が一日多く、中旬は一日少ない。そのため、中旬にかけて、統計数値が指し示すほどにドラスティックな変化（輸出の回復、輸入の急増）があったかは疑問である。割り引いて考える必要があるだろう。

上中旬の前年比をそのまま下旬に当てはめると貿易収支（原数値）は7,515億円の赤字（3月1,894億円の黒字）に転落する。また、季節調整値を試算すると、輸出は前月比 8%程度（3月 7.7%）、輸入は9%程度（3月 1.4%）となり、貿易収支は8,640億円程度の赤字（3月は963億円の黒字）になる。但し、4月下旬頃に完成車工場が生産を再開したことを踏まえると、4月の輸出減少幅はもう少しマイルドなものになり、赤字幅も多少圧縮される可能性が高い。いずれにしろ、サプライチェーン途絶による自動車関連の輸出急減と代替輸入などの増加により、4月の貿易赤字転落はほぼ確実である。

こうした動きは周辺国の統計から確認も出来る。既に公表されている中国と台湾の貿易統計によると、日本からの輸入は中国が4月前月比 6.5%（3月 + 5.8%）、台湾は 7.6%（3月 10.9%）といずれも大幅に減少した（いずれも当社試算の季節調整値）。1~3月期は旧正月の関係で変動が激しいことを考慮し、1~3月期平均との比較で見ると、台湾が 13.2%、中国は 5.6%となる。

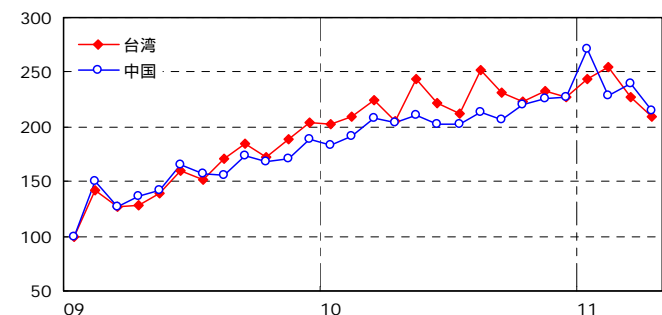
なお、日本の輸出の中で、中国や台湾を含むアジア向けは、サプライチェーン問題の影響が深刻な自動

4月の貿易動向予測(季調値、10億円)



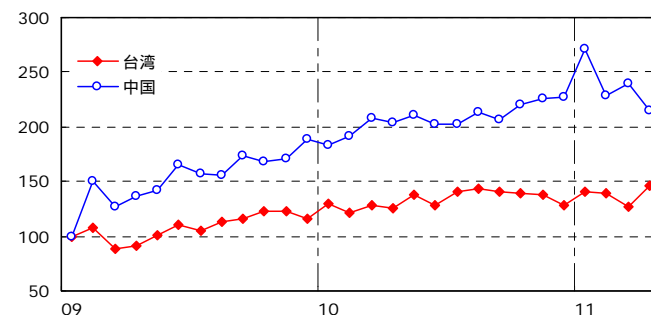
(出所)財務省

日本からの輸入(2009年1月=100)



(出所)CEIC Data

日本への輸出(2009年1月=100)



(出所)CEIC Data

車関連輸出のウェイトが低い<sup>1</sup>。そのため、自動車関連輸出の占める割合が高い米欧向け輸出はアジア向けよりも大幅な落ち込みを記録する可能性がある。

一方、貿易の逆サイドつまり日本への輸出を見ると、中国は4月に前月比4.2%と落ち込んだが、台湾は15.1%と大きく伸びた。両国共に、東日本大震災を受けて日本製製品の代替需要増大を予想する声があるが、既に台湾の統計ではそうした代替需要の顕在化が確認できる。

---

<sup>1</sup> 詳細は5月9日付Economic Monitor「2010年度の輸出動向を踏まえ震災後を考える」を参照。